

第61回 日本産業・労働・交通眼科学会

予稿集



会期◆令和元年 **11月16日**土

会場◆**昭和大学上條記念館**

〒142-0064 東京都品川区旗の台1-1-20

会長◆**恩田 秀寿** 昭和大学医学部眼科学講座 主任教授

第61回日本産業・労働・交通眼科学会事務局



昭和大学医学部眼科学講座

第61回 日本産業・労働・交通眼科学会

予稿集

INDEX

ごあいさつ	1
交通案内	2
会場案内図	3
学会案内	4
講演規定	5
講演中の注意事項	6
日本産業・労働・交通眼科学会 理事	7
プログラム	8
抄 録	
特別講演	11
ランチョンセミナー	17
一般講演	19
広 告	(1)

ごあいさつ



第61回日本産業・労働・交通眼科学会

会長 恩田 秀寿

昭和大学医学部眼科学講座 主任教授

この度は第61回日本産業・労働・交通眼科学会を昭和大学医学部眼科学講座が主催することとなり会長を拝命いたしました。本会は1962年に発会した「眼と道路交通研究会」を母体とし、1973年に「交通眼科学会」、1987年に現在の「日本産業・労働・交通眼科学会」に改称し、これまで計61回の学会を開催してまいりました。長い学会の歴史において昭和大学は5回目の開催となります。会場となる昭和大学上條記念館は昭和大学創立90周年事業により計画され、2019年4月に竣工いたしました。大学の講堂としての機能はもとより、各種学会やコンベンションが開催できるように多目的ホールやバンケットルームを設けております。11月10日の記念式典においてグランドオープンの予定です。まさに最新設備の整った会場での活発な討論ができることを期待しております。

本学会は眼科医のみならず多職種の情報交換ができる学会として大変貴重な存在であります。道路交通は様々な発展を遂げ、自動車においては、自動運転システムやドライブレコーダーの普及、後部座席シートベルト着用義務など、自転車においては左側走行の義務、車道走行、長距離ツーリング愛好者の増加など、私たちの身近な生活に大きな変化が起こっております。一方、視覚的原因によるトラブルも多く発生しており、もっぱら高齢者ドライバー対策は急務です。高齢者の視野、眼球運動速度は社会にどのくらい認知されているのでしょうか。さらに緑内障は失明の原因において本邦で1位であり、ロービジョン患者の職業補助においてもタブレット端末による視覚的アシスト方法も増加してきております。

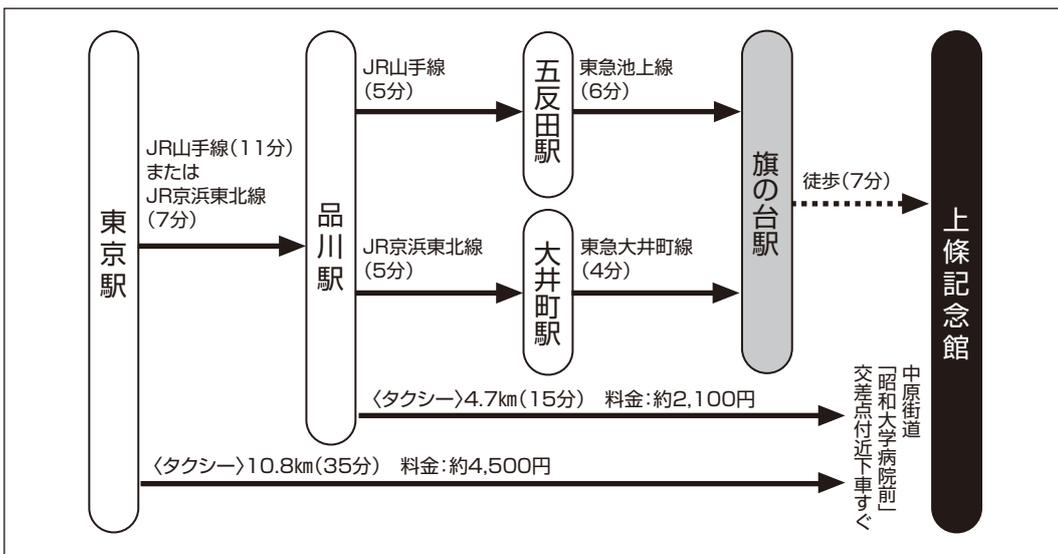
本会では特別講演2演題と一般演題12演題を予定しております。特別講演1には井上賢治先生をお招きしロービジョンに関する講演をしていただく予定です。特別講演2では交通事故鑑定士の中島博史先生をお招きし、交通事故から予防医学への橋渡しとなる講演をしていただく予定です。一般演題では交通外傷、交通と視覚などの演題を多く予定しております。参加者の皆様には、本会を通じて産業・労働・交通の眼科分野での知見をなお一層深められることを切望いたします。

交通案内

旗の台キャンパス周辺図



主要駅からのアクセス

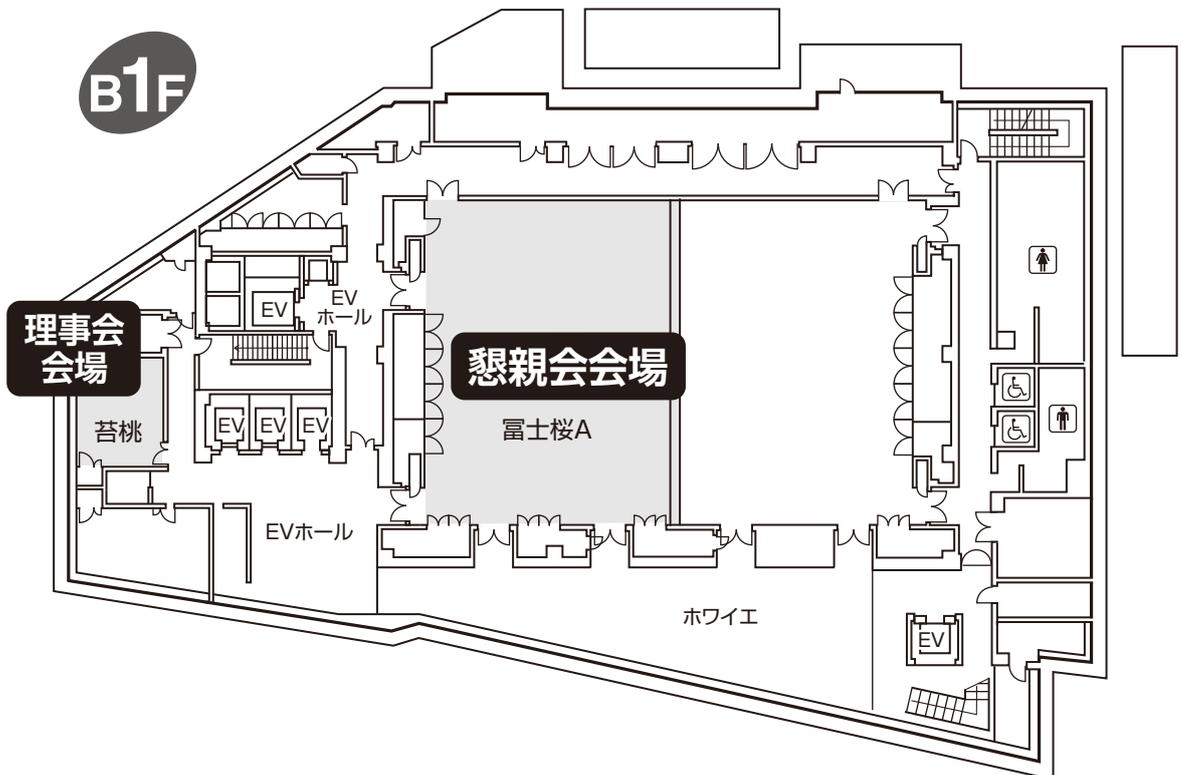
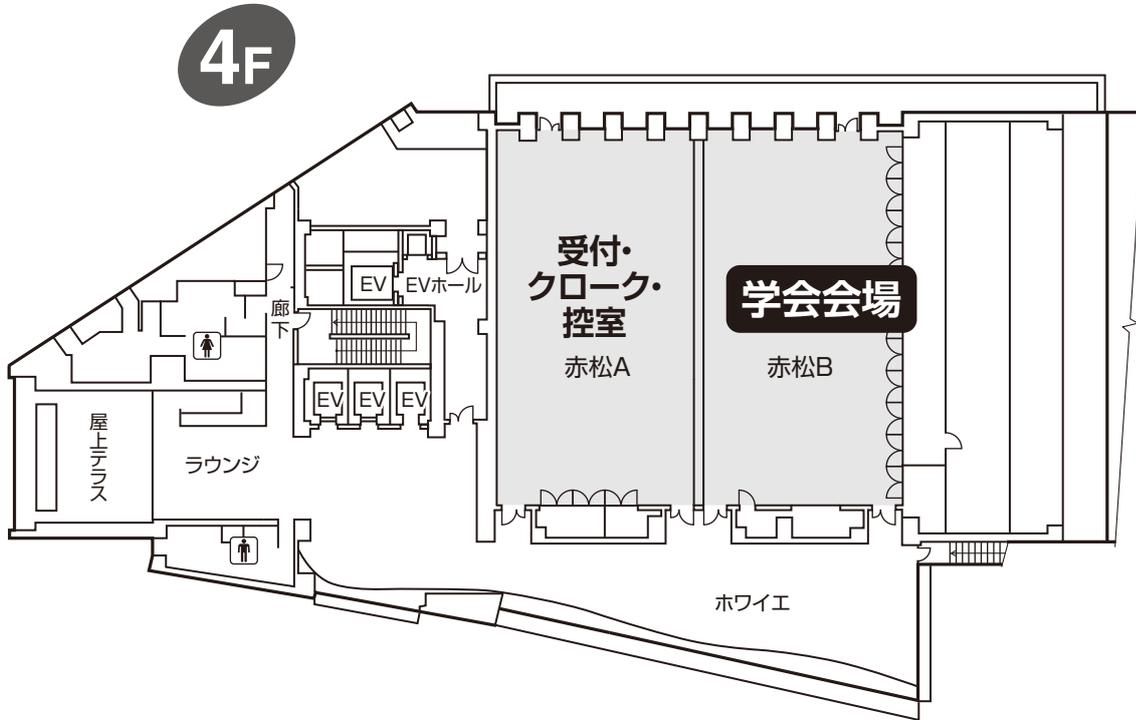


- 東急池上線・大井町線「旗の台駅」から徒歩 7分
- 東京メトロ南北線・都営三田線直通 東急目黒線「西小山駅」から徒歩 12分

会場案内図

昭和大学上條記念館

東京都品川区旗の台1丁目1番20号



学会案内

参加受付

会 期：令和元年11月16日（土）10:00～16:20

受 付：昭和大学上條記念館 4階 赤松 A

受付時間：9:00～

参 加 費：会員 3,000円、非会員 8,000円

学生 1,000円 ※研修医・大学院生・留学生・コメディカル

事前登録はございませんので、当日受付にてお支払いください。

理 事 会

日 時：令和元年11月16日（土）11:35～12:15

会 場：昭和大学上條記念館 地下1階 荅桃

学会参加者懇親会

時 間：学会終了後～

会 場：昭和大学上條記念館 地下1階 富士桜 A

会 費：2,000円

会費は、当日受付にてお支払いください。

多数のご参加をお待ちしております。

専門医制度

- 本学会は日本眼科学会専門医制度生涯教育事業（No.59062）に認定されております。
- 当日は専門医制度登録証（カード）を学会受付までお持ちください。
- 取得単位は3単位です。

予稿集 PDF 版

予稿集は本会ホームページより PDF 版でもご覧になれます。

※パスワードは eosj61 です

<http://square.umin.ac.jp/eosj61/abstract.html>



講演規定

講演時間

- 発表時間は12分、質疑応答は3分の計15分です。
- 発表時間の厳守にご協力をお願いいたします。

発表形式

- デジタルプレゼンテーションのみです。

デジタルプレゼンテーションの注意事項

- 発表用パソコン（Windows 対応）はこちらでご用意いたします。
- Mac OS をご利用される方はご自身でパソコンをお持ちください。
その際、D-sub15ピンもしくは、HDMI の外部モニター出力端子に接続できる環境にしておいてください。
- Power Point 等のプレゼンデータを学会当日、受付までご提出ください。
- その他ご不明な点等ございましたら、学会事務局までお気軽にお問い合わせください。

講演時操作方法

- 前講演者の講演が始まりましたら会場前方のお席にてお待ちください。この際、発表用 PC をお持ちになられた方は PC を起動し、発表用ファイルを起動してお待ちください。
- 発表間の時間は確保しておりませんので、交代は速やかに行い、講演のスムーズな進行にご協力ください。

講演中の注意事項

- 参加者は座長の進行に従ってください。
- 質疑応答の際は、準備されている質問用マイクにて、所属と名前を述べた後に簡潔にご発言ください。
- 講演中は、携帯電話をマナーモードに設定してください。
- 画像撮影や音声録音はお断りしております。
- その他ご不明な点等がございましたら、学会事務局へお気軽にお問い合わせください。

第61回日本産業・労働・交通眼科学会事務局

昭和大学医学部眼科学講座

〒142-0054 東京都品川区西中延2-1-16

TEL：03-3784-8553 FAX：03-3784-5048

E-mail：ganka@med.showa-u.ac.jp

URL：http://square.umin.ac.jp/eosj61/index.html

日本産業・労働・交通眼科学会 学会本部事務局

昭和大学医学部眼科学講座

〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8

TEL：03-3784-8553 FAX：03-3784-5048

E-mail：koutuganka@med.showa-u.ac.jp

URL：http://square.umin.ac.jp/EOSJ/

日本産業・労働・交通眼科学会 理事

理事長	小出 良平	学校法人昭和大学
	阿山みよし	宇都宮大学大学院工学研究科 情報制御システム科学専攻
	市川 一夫	(医)いさな会 中京眼科
	稲富 誠	昭和大学医学部眼科学講座
	植田 俊彦	二本松眼科病院
	魚里 博	東京眼鏡専門学校 校長 日本眼鏡学会 理事長
	岡嶋 克典	横浜国立大学 大学院環境情報研究院 社会環境と情報部門
	川守田拓志	北里大学医療衛生学部視覚機能療法学
	神作 博	中京大学
	近藤 寛之	産業医科大学医学部 眼科学教室
	斎田 真也	神奈川大学 人間科学部
監事	鈴木 弘隆	すすむら眼科
	高橋 春男	高橋医院
	高橋 広	北九州市立総合療育センター 眼科
	田中 清	信州大学学術研究院
	仲泊 聡	国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター 網膜再生医療研究開発プロジェクト
	中野 匡	東京慈恵会医科大学附属病院 東京慈恵会医科大学眼科学講座
	和氣 典二	神奈川大学 視科学研究所

プログラム

10:00～10:05 **開会の辞** 恩田 秀寿(昭和大学医学部眼科学講座)

10:05～10:50 **一般講演Ⅰ** 座長：鈴木 弘隆(すすむら眼科)

01 小型トラックのサイドミラーによる眼外傷の2例

○木崎 順一郎、恩田 秀寿
昭和大学医学部眼科学講座

02 硬式野球による外傷で、外傷性黄斑円孔と眼窩内側壁骨折を生じた1症例

○安田 健作¹⁾、摺木 友美²⁾
1) 富士吉田市立病院、2) 今給黎総合病院

03 破碎した眼鏡レンズ破片により複雑な穿孔性角膜外傷を生じた1例

○吉田 健也¹⁾、浅野 泰彦²⁾、岩渕 成祐¹⁾、上條 由美¹⁾、西崎 理恵¹⁾、平野 彩¹⁾、
砂川 珠輝¹⁾、小菅 正太郎¹⁾
1) 昭和大学江東豊洲病院、2) 昭和大学医学部眼科学講座

10:50～11:35 **一般講演Ⅱ** 座長：落合 信寿(産業医科大学 医学部 眼科学教室)

04 2色型色覚者の色識別を考慮した色変換の定量的評価に関する検討

○隅田 智大¹⁾、田中 芳樹²⁾、市川 一夫³⁾、田中 清⁴⁾
1) 信州大学大学院総合理工学研究科、2) 中京眼科 視覚研究所、3) JCHO 中京病院、
4) 信州大学学術研究院(工学系)

05 一般色および蛍光色における色コントラストと視認性

○川守田 拓志¹⁾、竹中 直²⁾、辻 創³⁾、金井 博幸⁴⁾、平井 利博⁵⁾、鈴木 裕生⁶⁾、
半田 知也¹⁾、庄司 信行⁷⁾
1) 北里大学医療衛生学部、2) 一般財団法人ニッセンケン品質評価センター、
3) 一般財団法人カケンテストセンター、4) 信州大学繊維学部、5) 信州大学特任教授・名誉教授、
6) アゼアス株式会社、7) 北里大学医学部

06 視覚探索中の眼球運動による視野特性の計測

○仲泊 聡¹⁾²⁾³⁾⁴⁾、古田 歩³⁾⁵⁾、高橋 あおい¹⁾⁶⁾、早乙女 慶輔²⁾、久保 寛之²⁾、
堀口 宏史²⁾、小出 直史¹⁾³⁾、高橋 政代¹⁾³⁾⁴⁾、中野 匡²⁾、宮内 哲⁷⁾
1) 理化学研究所、2) 東京慈恵会医科大学、3) 神戸市立神戸アイセンター病院、
4) 公益社団法人 NEXT VISION、5) 前田眼科医院、6) 東京女子大学、7) 情報通信研究機構

11:35～12:15 **理事会** 地下1階 苔桃

12:05～12:55 ランチョンセミナー

座長：恩田 秀寿(昭和大学医学部眼科学講座)

製品説明

ノバルティスファーマ株式会社

糖尿病黄斑浮腫に対する最新の治療

岩渕 成祐 昭和大学江東豊洲病院

網膜静脈分枝閉塞症の当院の治療戦略

小菅 正太郎 昭和大学江東豊洲病院

12:55～13:00 休 憩

13:00～13:50 特別講演Ⅰ

座長：齋藤 雄太(昭和大学医学部眼科学講座)

ロービジョン者に対する産業・労働・交通を考える

井上 賢治 井上眼科病院 理事長

13:50～14:00 休 憩

14:00～14:45 一般講演Ⅲ

座長：魚里 博(東京眼鏡専門学校 日本眼鏡学会)

07 視覚障害生徒就労支援に関するアンケート調査

○高橋 広¹⁾、氏間 和仁²⁾、近藤 寛之³⁾

- 1) 北九州市立総合療育センター 眼科、2) 広島大学大学院教育研究科、
3) 産業医科大学医学部 眼科学教室

08 視覚障害者の就労支援に関する就労移行支援事業所の全国実態調査

○落合 信寿¹⁾、高橋 広²⁾、近藤 寛之¹⁾

- 1) 産業医科大学医学部 眼科学教室 2) 北九州市立総合療育センター 眼科

09 緑内障における身体障害者認定基準該当者

○鈴木 弘隆¹⁾、植田 俊彦²⁾、宇多 重員²⁾

1) すずむら眼科、2) 二本松眼科病院

14:45～15:30 一般講演Ⅳ

座長：高橋 広（北九州市立総合療育センター 眼科）

10 当院における視力と自動車運転の実態

○山田 美穂¹⁾、須田 考一¹⁾、藤澤 邦見¹⁾²⁾、高橋 春男¹⁾

1) 御代田中央記念病院、2) 昭和大学横浜市北部病院

11 多焦点眼内レンズ白内障手術における、 術中波面収差解析装置を含んだ術後屈折予測精度

○寫寄 薫、藤澤 邦見、三浦 瑛子、禪野 誠、遠藤 貴美、薄井 隆宏

昭和大学横浜市北部病院

12 多焦点眼内レンズ偏位に対して、 縫着カプセルエキスパンダーが有効であった症例

○栗家 亜実、早田 光孝、西村 栄一、徳永 義郎、栗岡 隆弘、吉野 正範、権 慶花

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

15:30～16:15 特別講演Ⅱ

座長：恩田 秀寿（昭和大学医学部眼科学講座）

交通事故分析の現場から

中島 博史 交通事故鑑定 Raptor

16:15～16:20 閉会の辞

座長：西村 栄一（昭和大学藤が丘リハビリテーション病院）

学会終了後～

懇親会

地下1階 富士桜 A

特別講演

ロービジョン者に対する 産業・労働・交通を考える

井上 賢治

井上眼科病院 理事長

「緑内障」は視神経が損傷することにより、視野が徐々に欠ける慢性進行性疾患です。視野欠損は悪化していない他眼が補うため、自覚症状が乏しいままゆっくと進行します。一般的に視野・視力障害などの自覚症状が現れるのは、中期以降といわれています。最終的には、失明に至る場合もあります。現在、我が国における失明原因の第1位となっています。超高齢化社会に直面している我が国においては、今後ますます緑内障によるロービジョン者の増加が予測されます。視覚障害により視力低下や視野障害を来たした患者に対してはロービジョンケアが必要です。それは医療のみならず、産業、労働、交通などの側面で連携していくことが有益です。

医療ではロービジョン外来を設け、視覚障害で生活に支障を来している人に対して適切な視覚補助具の選定などの支援を行います。しかし、ロービジョン者には医療だけでなく、教育的、職業的、社会的、福祉的、心理的等すべての支援が必要となります。社会的、福祉的な支援として、いわゆる産業面では、障害者雇用促進法があります。従業員が45.5人以上の事業主に対して従業員の一定割合(法定雇用率)以上の障害者の雇用を義務付けており、未達成の場合は罰則金が課せられます。当院でも、視覚障害者を就労するにあたり、その特性を活かした仕事をと考え、視覚障害を有する患者にIT機器の使い方を教えたり、便利なアプリケーションを紹介するITサポート事業を立ち上げました。さらに障害者の就労継続については産業医との連携が必要です。

眼科医療施設で就労支援や職業訓練を行うことには限界があり、専門的に行っている福祉施設へ患者を紹介することが望ましいと考えます。しかし、眼科医からそのような福祉施設に患者をつなぐことが難しいのが現状です。そこで生活訓練・支援、教育機関、就労支援、視覚障害者団体等の情報を提供できるようリーフレットを作成し、ロービジョン患者への働きかけを行っています。これはアメリカで開発されたスマートサイトという仕組みです。東京都でも眼科医会と大学のロービジョン担当医師が中心となりスマートサイト「東京都ロービジョンケアネットワーク」を作成しました。患者は自分のニーズに合った福祉施設に連絡を取ることができ、専門的な講習や訓練などを受けています。

近年、ロービジョン者の移動、特に電車や自動車などでの移動の際の危険性が問題となっています。電車については視覚障害者のホームからの転落が後を絶ちません。ホームドアの設置が推進されています。自動車の運転の危険性に対しては、その対策はいま

だ不十分です。そこで視野障害を有するロービジョン者を対象として、ドライビングシミュレータを施行し、自動車事故回避の補助になるような運転外来を西葛西・井上眼科病院で開設しました。また、当院はロービジョン者の施設内の移動についてユニバーサルデザイン(以下、UD)の観点から検討し、患者が外来で移動しやすい、病室で過ごしやすいなど使いやすい施設づくりを目指しました。井上眼科病院、お茶の水・井上眼科クリニックをリニューアルあるいは開院する際に患者調査に基づいて様々なUDを導入しました。さらに西葛西・井上眼科病院では五感に訴える新しいUDを導入しようと考え、音と光を用いました。光については夜間災害時の誘導を助ける手段として採用しました。

今後、ロービジョン者に対して、このような産業・労働・交通の側面からの支援を行うことにより、ロービジョン者のQOVが向上することが期待されます。

略 歴

1993年	千葉大学医学部 卒業 東京大学医学部眼科学教室 入局
1998年	東京大学医学部大学院 卒業
2002年	医療法人社団済安堂 井上眼科病院
2006年	医療法人社団済安堂 井上眼科病院 副院長 医療法人社団済安堂 お茶の水・井上眼科クリニック 院長
2008年	医療法人社団済安堂 理事長
2012年	医療法人社団済安堂 井上眼科病院 院長
2018年	日本眼科医会 常任理事

一般講演

小型トラックのサイドミラーによる眼外傷の2例

○木崎 順一郎、恩田 秀寿

昭和大学医学部眼科学講座

【緒言】近年、自動ブレーキシステムを始め、自動車の安全性能は著しい進歩をみる。さらに、後方、側方の視認性を向上させるために、サイドミラーの形状にも変化がみられる。しかしながら、トラック、特に、最大積載量3トン未満の小型トラックは、普通乗用車よりも高く、サイドミラーの上端は150～170cmの位置に設置されていることが多く、その高さは成人の顔面に相当する。また、普通乗用車のサイドミラーは車体(フェンダー)から10～20cm程度突出しているのに対し、小型トラックは30～40cm程度も突出している。さらに小型トラックであれば普通免許で運転が可能のほか、歩道のない比較的細い道を走行することも可能なため、人と接触するリスクが中型以上のトラックに比べ高いことも推測される。今回我々は、トラックのサイドミラーによる打撲で眼外傷を生じた2例を経験したので報告する。

【症例】症例1は64歳男性、走行中の2トントラックのサイドミラーにより顔面を打撲。直後より視力低下を自覚。前医でステロイドパルス療法を1クール施行されるも、改善不十分だったため、手術目的で受傷後38日に当院紹介受診。初診時矯正視力は右眼1.2、左眼0.05であった。左眼の相対的瞳孔求心路障害を認め、視野は下方のみ島状に残存していた。受傷後45日で経篩骨洞視神経管開放術を施行した。術後矯正視力は0.1で、視野も術前に比べ改善がみられる。

症例2は26歳女性、自宅前の道路で、走行中のトラックのサイドミラーにより左顔面を打撲し、同日当院紹介受診。初診時矯正視力は右眼0.9、左眼1.0で、右眼は上方への眼球運動障害と強い眼球運動痛を認めた。CTで眼窩底骨折を認め、筋絞扼型も疑われたため、同日、眼窩底骨折整復術を施行した。術後4ヶ月の時点で、眼球運動は改善しているが、顔面の知覚障害が残存している。

【結論】トラックのサイドミラーによる眼外傷を2例経験した。小型トラックのサイドミラーは普通乗用車に比べ、より人間の顔面に近い高さで、車体からもより突出しているため、眼外傷のリスクが高いことが考えられる。近年では自動車安全技術が目覚ましく向上しており、車載カメラによるアシストなどで、側方や後方の視認性は著しく向上しているため、従来ほどの大型のサイドミラーは必要がなくなりつつある。そのため、視認性を確保しつつ、より安全性の高い形状にするなどの工夫が望まれる。

第61回日本産業・労働・交通眼科学会 予稿集

会 長：恩田 秀寿(昭和大学医学部眼科学講座 主任教授)

事務局：昭和大学医学部眼科学講座

〒142-0054 東京都品川区西中延2-1-16

TEL：03-3784-8553 FAX：03-3784-5048

E-mail：ganka@med.showa-u.ac.jp

URL：http://square.umin.ac.jp/eosj61/index.html

発 行：日本産業・労働・交通眼科学会

印 刷：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

http://www.secand.jp/

